

もとは漢部(あやべ)の里

播磨国風土記によると、小宅地区は、1320年以上前は漢部(あやべ)の里と呼ばれていたそうです。この漢部の里という地名から渡来人が住んでいたことがわかりました。

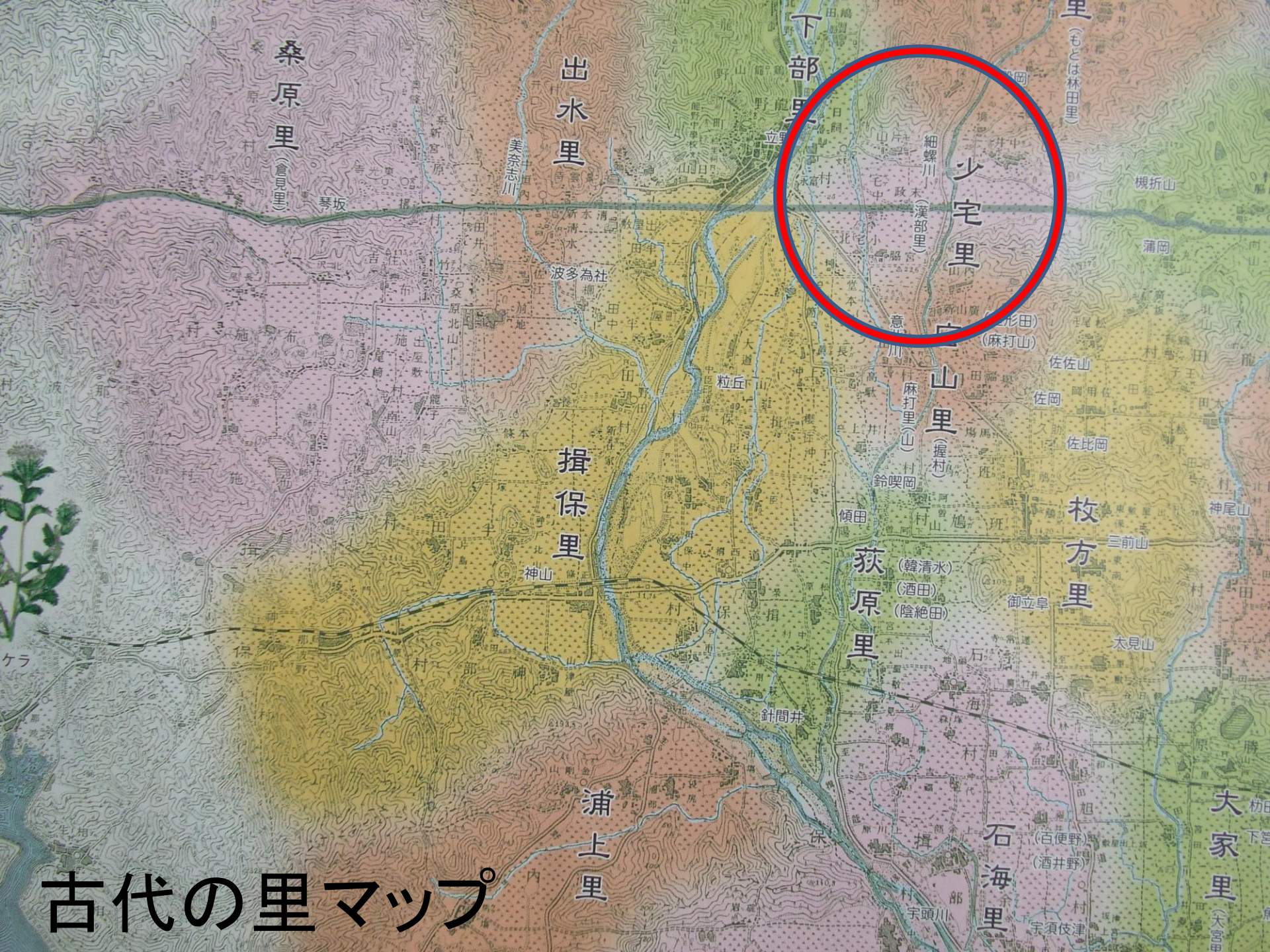
渡来人とは、社会科で学習したように、日本に、農業、養蚕、はた織り、鍛冶(かじ)、建築、土木、製陶、宗教等を伝えた人々です。渡来人には大きく2つの集団【(漢氏(あやし)と秦氏(はたし)】があったそうです。

この頃から漢字も使われはじめ、この漢部の里に住む漢氏(あやし)は文筆に優れていたのです、当時の記録や文章の作成と管理を担当していたとされます。

小宅という名の由来

播磨国風土記によると、今から1320年前の漢部の里で、川原若狭の祖父が少宅秦公という女性と結婚したのです。秦公は秦氏の一族だそうです。後に若狭の孫の智麻呂がこの地をまとめる里長(さとおさ)になりました。その名字をとって地名が少宅の里となったのです。これが小宅という名前の始まりです。この当時は「小」ではなく「少」の字を使っていました。

鈴野里 所以号鈴野者品太天皇之世田於此里鷹
鈴野語未而不得故号鈴野里 小宅里 本名は口里
立下中 所以号漢部者漢人君之此村故以名所以
後改日少宅者川原若狭祖父娶少宅秦公之女即
号其家少宅後若狭之孫智麻呂任為里長由此更
宣年為 少宅里 細環川 所以号細環川者百姓高
田開隣細環多仁此隣後終成川故曰細環川 櫛保里
所以号此若此里依於粒山故因山為若粒山 所以号粒



桑原里 (倉見里)

出水里

下部里

少宅里

山片里 (握村)

揖保里

萩原里

枚方里

浦上里

石海里

大家里 (大宮)

古代の里マップ

「龍野」の由来

「龍野」の由来は、相撲の祖先として知られた野見宿禰が病で龍野で亡くなりました。英雄を思う人たちが出雲からやってきました。揖保川から、人がたちならび石を運び上げ、宿禰の墓を築いたのです。そうして英雄を思う熱い気持ちで、野に立ち並んだので「立野」となり、その後「龍野」になったのです。

「播磨」の由来

「播磨」という地名がついた説は3つあるそうです。1つ目は、神功皇后の命令によって、大きな萩が育ったので、それを祝うために井戸を掘ることになったのです。萩原（今のたつの市揖保町萩原）の間に井戸を掘って、その井戸を「針間の井」と名付けられ、その時、播磨が誕生しました。他にも地形から「張り浜」や浜を塩田にして「墾り浜」という説もありました。

「揖保」の由来

現在、伊和神社にまつられている伊和大神は、戦にいく途中で、食事をしましたが、あわてていたため、ご飯の米粒が口に入らなく、その辺りに散らばってしまったのです。伊和大神はその丘を「粒（いいほ）の丘」と呼ぶようになったのです。これが揖保の由来です。